

のためにさざびとれる「お断り」と発言した。べきだという両国相互とが報じられている。の決意を示す表徴で「す」

1957年6月15日。初代原子力委員長、正力松太郎の地元富山の県民は、地元紙の1面に掲載された米大統領アイゼンハワーのメッセージに見入った。同じ紙面には「核兵器

### 盛況な博覧会

「大勢の人が来た。自分も博覧会を見に行った。ただ『原子力』と言われても、あまりピンと来なかった」。富山県高岡市大手町に住む原英雄(69)は54年再認識した。「第3の火」に驚嘆する見学

た清田坂の本太助氏は、設けられた会場には、実物大の原子炉模型や核連鎖反応を示す電工式モデルなどが展示。中でも人気を集めたのは、放射性物質を遠隔操作する「マジック・ハンド」だった。

「原子力の偉大さを再認識した」。「第3の火」に驚嘆する見学



## 福島第1 建屋地下に凝固剤投入

### 東電検討 汚染水の漏出防止へ

東京電力福島第1原発事故で、東電が高濃度放射能汚染水がたまっていく原子炉建屋地下に凝固剤を投入し、タービン建屋側への漏出を止める工法を検討していることが19日、同社への取材で分かった。汚染水処理の範囲を狭め、高濃度の放射性廃液などを減らすのが目的で、東電は来年夏以降の計画着手を目指している。

建屋地下に漏れ出し、さらにそこからタービン建屋地下や立坑に流入。この水をポンプでくみ出し、浄化後に再度注水している。

現在の注水量は処理能力より少ないため、本来ならタービン建屋地下の汚染水を減らせ

るはずだが、同建屋の水を減らし過ぎると地下水の流入が増え、結果的に処理総量が増える。シレンマに陥っている。

このため、東電は原子炉建屋からタービン建屋への汚染水漏出を止め、循環注水冷却の

範囲を狭める方法を模索。原子炉建屋地下に凝固剤を投入し、漏出を止める工法の検討を始めた。

漏出が止まれば、循環注水冷却の範囲は原子炉建屋内で完結することになり、処理量や廃棄物の発生量も少なくなる見通しで、将来的にはさらに範囲を狭め、格納容器内で循環させることを目指すという。

の文夕信佐橋長、オプ た反松社請のまし文使館広報文化交流局 だった。(USIS) だった。

「日本の状況を懸念している。改善するため、何が出来るか、何し、反米・反核感情は成をすべきか、スタツフ 最高潮に達していた。作に分析させてほしい」。USISは絶望的な作

東京で開かれた原子力平和利用博覧会(左上)と原水爆禁止の署名を整理する東京杉並区の主婦ら(右下、杉並区提供)、アイゼンハワー(右上、AP)、正力松太郎(左下)

「日本の状況を懸念している。改善するため、何が出来るか、何し、反米・反核感情は成をすべきか、スタツフ 最高潮に達していた。作に分析させてほしい」。USISは絶望的な作

が東京・杉並で始まった直後の同年5月26日、アイゼンハワーは論がほとんどなくなった。何があっても

### 脱原発弁護団全国連絡会代表の弁護士

「日本の原発を今すぐ全部止める。そのために全ての原発立地で、もう一回差し止め裁判を起す」。福島第1原発事故を受け、この夏、脱原発弁護団の全国連絡会を結成した。函館地裁で審理中の大間原発(青森県大間町)建設差し止め訴訟の弁護団共同代表も務める東京の弁護士だ。

巨大な利権構造である原子力村は強靱な爬虫類のようなものという。

今は首が切れかかって、のたうっているが、時間がたつと、くっついて大

### 復興財源

## JT株売却を容認

### 財政制度審が意見書

財政制度等審議会(財務相の諮問機関)は19日の会合で、東日本大震災の復興財源確保を目的とした政府の

日本たばこ産業(JT)株売却について、意見書をまとめた。JT株

「変更を加える必要はない」とした。

一方、政府はJT株



ひろ之 さん  
ゆき 弘  
かわ河

暴れる。本当に息の根を止めないと復活する。その第一の動きが8月の北海道電力泊原発(後志管内泊村)3号機の営業運転再開だともみている。原発訴訟に関わるきつ御用学者、かけは17年ほど前。「反る人」。